

感染症とのたたかひの歴史に教訓あり 新型コロナ対策について2つの文献から学ぶ

新型コロナ対策を考える上で読んでおきたいと思っていた文献を入手し、読み始めました。

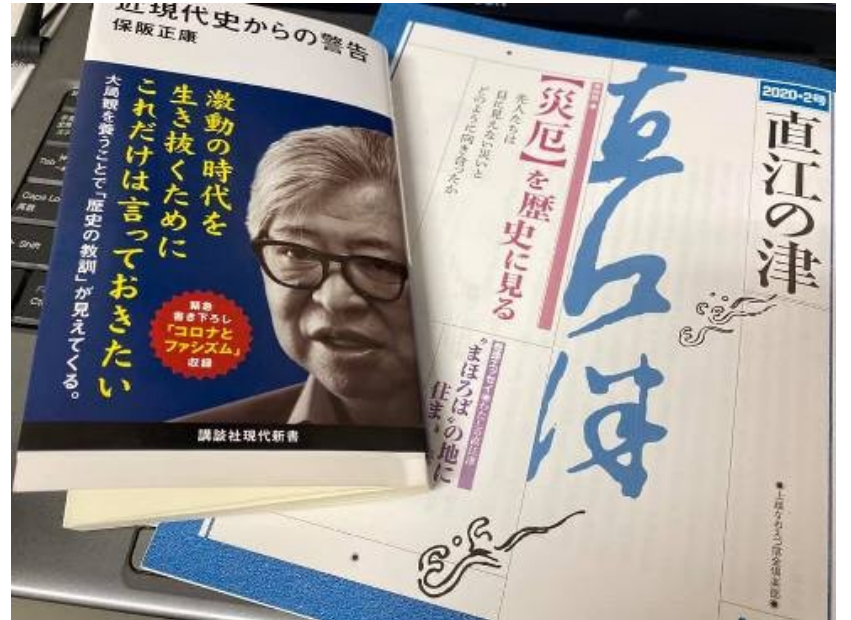
そのうちの1つは、『近現代史からの警告』（講談社現代新書）です。著者は保坂正康氏。同氏は、新型コロナウィルス感染症が世界のつながりの中で起こり、急速に拡大しているいま、「過去を丹念に振り返り、その教訓から得る歴史観を持って、この難局に立ち向かうべきだ」と訴えています。

死者が約10万人にもなった明治10年代のコレラ。当時の政府が出した指示は「国内での本格的な防疫という点で、これは近代日本の嚆矢（こうし）」だとしています。また、大正7年から10年にかけて流行したインフルエンザ、いわゆる「スペイン風邪」では、3回も流行を繰り返し、患者数は2380万人、死者も38万人に達したといいますが、大正8年の結核予防法の内容（結核菌に汚染された家屋の消毒、生活困窮患者への生活補助など）が今の新型コロナ対策でも参考になるとも述べています。そして、昭和初期の大恐慌の後のファシズムに触れながら、新型コロナ禍のあとに警戒すべき

は、超国家主義的発想だと指摘します。

新型コロナ後の社会の為に私たちは何をなすべきか。保坂氏は、「私たちはいま、コロナとの戦いの中で市民たり得るかどうかを試されています。もっとはっきり断言すれば、ファシズム体制がいかに人間性を損なうかを『歴史からの警告』として学んでいるのです。（中略）感染連鎖を断ち切り、私たちの生命と生活と民主主義社会を守るために、市民としての自覚と自己管理が求められているのです」と訴えています。

いまひとつの文献は、「直江の津」最新号（上越なおえつ信金倶楽部発行）です。この冊子では、北越出版の佐藤和夫社長が、「災厄を歴史に見る」というテーマで上越での主な感染症の歴史を書かれています。大正7年からのインフルエンザでは、7年、9年に、高田十三師団でそれぞれの年に千人を超える罹患者



が出て、130人もの方が亡くなったこと、とくに柿崎では死亡者が多かったことなどが紹介されています。

紙面の都合で、ごく一部しか紹介できませんでしたが、いずれの文献も貴重です。私も歴史に学びながら、頑張りたいと思います。



【ヨウシュヤマゴボウ】
ヤマゴボウ科の多年草。漢字で「洋種山牛蒡」と書きます。北アメリカ原産の帰化植物。草丈は2mほど。花期は6月から9月。白色か薄紅色の花を咲かせます。秋には黒い実をつけます。この実の汁を衣服につけると簡単にはとれませんのでご注意ください。花言葉は「純情」「元気」。写真は3日、吉川区代石にて撮りました。

死んだ者に、敵も味方もありません

高田図書館の小川未明文学館へ行き、市主催の「平和展」を見てきました。

「死んだ者に、敵も味方もありません」と直江津捕虜収容所の死者の遺骨を引き受けた覚真寺の円理住職の話は何度見ても感動します。写真はその説明パネルです。

新潟県内の空襲で初めて被害を出した1945年（昭和20）5月5日の直江津空襲のパネルで同年7月16日にも空襲があったことを知りました。



広島に落とされた原爆のパネルでは、「死の同心円」「広島になぜ原爆が落とされたか」に注目しました。「大戦後のソ連との勢力争いに備えて、アメリカの威力を見せつけることが目的だった」とは……。

会場では、「もっと早く戦争をやめる決断をすれば、こういうことにならなかったのに」という声も上がっていました。「平和展」は8月16日までです。

はしづめ法一の
活動レポート

No.1968 2020.7.19

発行・編集 日本共産党上越市議 橋爪のりかず
Tel 025-548-3628

通じないときは 090-5392-1961

E-mail hasiznyg@ruby.ocn.ne.jp

URL <http://www.hose1.jp/>



ブログ
「ホーセの見
てある記」は
← こちら

橋爪法一

検索

春よ来い

第六一五回

替え歌

先日のことです。お連れ合いのT子さんに「歌ってみない」と言われ、居間でくつろいでいたDさんが歌を歌ってくださいったのにはびっくりしました。

Dさんが歌い出したのは、「お座敷小唄」の替え歌です。

♪何もしないで ぼんやりと
テレビばかりを覗いていると
のんきな様でも年をとる
いつか知らずに ●●ますよ

Dさんは今年の春から毎週2回、デイサービスに通っています。この替え歌はそこで覚えたようです。「お座敷小唄」の替え歌は「●●ます小唄」と「●●ない小唄」の2種類あるのですが、よほど気に入ったのでしよう、Dさんはどちらも歌ってくださいました。

もともとDさんは職人さんで、酒の席は何度も経験されていたのでしようが、私はDさんが酒の席で歌う姿は一度しか見たことがありませんでした。正直言って、歌は歌っても、それは商売上、半ば義務的なことであって、本人は自らマイクを握るような人だとは思っていませんでした。それだけに居間で歌詞を見ながら歌う姿は新鮮でした。

私の場合と違って、Dさんが歌う歌はちゃんとリズムに乗って、流れもきれいで、声もいい。たぶんデイサービスでは、談話室で歌うと、仲間の皆さんや護士のみなさんなどから「上手いねえ」「上手なもんだ」とほめられているんだと思います。Dさんは、その延長線上で、これらの替え歌を歌ってくださいったのでしよう。とにかく、楽しんでました。

デイサービスでの活動についてDさんが歌のこと以上に語ってくださいったのは野菜作りです。

野菜作りをするデイサービスがあることは聞いてはいましたが、実際にその作業に

携わっている男性から話を聞くのは初めてでした。Dさんが通うデイサービスでは、利用者の方が元気に頑張れるようにと、野菜作りには本腰を入れていようです。ここでは土起こしもするし、タネまき、苗植え、草取りもする、畑仕事はなんでもするのだそうです。

Dさんは、「デイサービスに行くと、畑仕事するとは思わなかったお」「おれなんか、畑仕事してこなかったすけ、NさんやOさんから教えてもらっているが」と言いました。が、ニコニコしながら話している姿を見ると、いやいやながらではなく、けっこう気に入ってやっているのだろうと思えました。

T子さんによると、デイサービスに通い始めた頃、Dさんは靴をはいて出かけていたそうです。でも、外で畑仕事をするのもあることがわかってからはスニーカーに履き替えたといっています。

いまは梅雨時です。雨が降っているときはどうするのかと思ったら、屋内で手仕事をやるのだそうです。具体的には塩の袋詰め作業です。上越では安塚の塩が有名ですが、このデイサービスではフィリピンから輸入した塩を一定量、袋に入れる作業をやっているとのことでした。

Dさんは今年になって物忘れがひどくなり、医者にお世話になりました。元の状態への完全復帰は難しいと思いますが、いまは落ち着いてきていて、デイサービスには元気に通っています。

♪年をとっても 白髪でも
頭はげても まだ若い
演歌唄って アンコール

生きがいある人 ●●ません

Dさんが歌った替え歌の「●●ない小唄」の最後です。Dさんが歌っていると、お茶の用意をしていたT子さんの頬がゆるむのを見えました。

「雨が降ってきた」

雨が降り始めたときの母と娘の「あら、雨だわ」という言葉が聞こえてきそうな切り絵です。赤や青の色が鮮明で、見た途端、いい絵だと思いました。

この作品は直江津は石橋にある食堂・喫茶「あひる」に展示されています。ぜひご覧になってください。

作者は市内石橋在住の西山英夫さん。最近では昭和の懐かしい風景だけでなく、もっと新しい時代の風景も作品に登場します。



ニュースフラッシュ

上越地域各消防署における 空間放射線量率測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。
消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	7月8日(水)	7月15日(水)
上越南消防署	0.057	0.057
上越北消防署	0.053	0.050
新井消防署	0.057	0.053
頸北消防署	0.043	0.050
頸南消防署	0.070	0.050
東頸消防署	0.057	0.057
名立分遣所	0.057	0.057
高士分遣所	0.057	0.057

新型コロナ対策追加予算で臨時議会

国の新型コロナ対策の第2次補正予算による地方創生臨時交付金、このほど市町村への配分額が確定しました。上越市へは19億2245万円余です。

この動きに合わせて、市では一般会計補正予算案を祖み、臨時議会に提

案します。内容は21日に予定されている議会運営委員会で明らかになりますので、次号でお知らせします。予定されている臨時議会は29日午前10時から開催される見込みです。どなたでも傍聴できますので、マスク着用の上、お出かけください。